

# インターネット研究現場からの便り

砂原 秀樹

奈良先端科学技術大学院大学教授 / WIDE ボードメンバー

**先**月号のニュースで既報のとおり、IAA アライアンスは現在「被災者情報登録・検索システム(IAAシステム)」のスマトラ沖地震・インド洋津波向けの運用を行っている。このシステムは阪神淡路大震災での経験を元に、WIDE プロジェクト(代表 村井純)で1995年より開発が進められてきたシステムである。今回は、ライフラインとしてのインターネットの役割について考えていきたい。

## Letter #2

### 「ライフラインとしてのインターネット」

今年で阪神大震災から10年が経過したが、あの日の朝のことは未だに忘れることはできない。幸い私自身は無事であったが、被災した友人も多く、当時のインターネットの関西地区の核であった大阪大学のネットワーク機器は大きな被害を受けた。そして、いろいろなことが落ち着いて、最初に考えたのは「我々ができることは何だろうか?」ということだった。

まず行ったことは、ホームページで被災地の状況を掲載し、震災によって亡くなられた方々の名簿を公開することだった。当初、我々はそれで何かを実現した気になっていたが、実際は基本的にマスコミが行っていることをインターネット上で繰り返しているだけで、インターネットらしい機能は提供していないことに気づいた。名簿が電子的に掲載されることで、確かに「検索」が可能にはなったが、ただそれだけなのだ。

「死亡者名簿に載っていないということは、その人が生存していることの証じゃないんだよ」

これは、当時米国へ留学していたWIDEプロジェクトのメンバーの一言である。彼は大きな被害を受けた西宮市の出身で、被災地の親戚に電話もつながらず、毎日我々が更新するホームページを見ては心配をつのらせていた。そんな時に発せられた言葉だ。

インターネットの持つ特徴は、個人と個人のコミュニケーションを支えるということだ。こう考えると、地震や火山噴火といった被災地にいる人々相互、あるいは被災地にいる人々とそれ以外の場所にいる人々相互を結ぶ役割を果たすことが、インターネットの重要な役割であることが明らかになってくる。

例えば、被災地にいる家族や親戚の安否、どこに避難しているのか、そしてそこでどういう物資を必要としているのかといったことを知りたい。しかし、こうした情報は従来の通信システムでは入手しづらいものであった。

こうした情報を実際に交換するシステムとして構築されたの

が、IAA(I Am Alive)システムだ。IAAシステムでは、被災者が自分の状況を登録し、それを他の人が検索して閲覧できるというサービスを提供している。現在では、同様のシステムを携帯電話会社などが提供しているが、最初にこうした機能を提供したのがIAAシステムなのである。IAAシステムは、災害発生時に利用されるシステムであることを考慮して、インターネットの一部が障害を受けていたとしても全体としてはサービスが停止しないように構成されている。これは、被災者情報を管理するデータベースを複数用意し、相互に情報を交換することで、一部のデータベースが停止したとしても他のデータベースを利用してサービスを継続できるようにしているのである。

ところで、阪神大震災において我々が経験したもう1つの大切なことは、何か事が起こってからでは何もできないということだった。つまり、日頃より準備をしておき、いざというときにちゃんと機能するように準備しておくことが不可欠であるということだ。そのため現在のIAAシステムは、情報通信研究機構を中心としたIAAアライアンスで開発と運用が継続的に行われている。しかし、それでもスマトラ沖地震・インド洋津波向けの運用では、その開始が遅れてしまった。これは、その前に発生した新潟県中越大地震用にIAAシステムが運用されていたためだ。現行のIAAシステムは、複数の災害を想定した設計となっていない。

このように、こうしたシステムがより有効に機能するためには、さまざまな課題をまだまだ解決する必要がある。例えば、格納された情報のプライバシーに関する問題は非常に重要な課題となっている。また、現在登場している複数のシステム間での情報の共有も大切な技術課題であろう。しかし最も重要な課題は、「いざというときはこれを使えばいい」という社会的常識を広く浸透させることである。そうでないと、どんなシステムが稼働していても利用してもらえないのだから……。

<http://www.iaa-alliance.net/>



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)